

【令和元年9月】

地域を支える仕組みづくり

宮沢地区で把握した「生活の困りごと」をどのように活かすか話し合いました

令和元年9月3日（火曜日）午前10時から小林地区にて、保健推進員主催の「ふれあい昼食会」と一緒に、地区の民生委員、寿楽苑の職員も参加し、連携してカードを用いて「生活の困りごと」を把握しました。

カードゲームの体験の後は、健康推進課の保健師から講話、寿楽苑の職員から口腔体操や手足を使ったレクリエーションが行われました。

最終回となる今回を経て、宮沢地区に多い困りごとの内容がどのようなものかをまとめ、これまでのそれぞれの活動を見直し、色々な関係者が協働で動き始めております。

9月25日（水曜日）には課題把握に関係した人が集まり、結果と今後の活用方法について話し合われました。把握した課題の解決は、他の団体と連携しなくては解決に至らない項目については、後日話し合いの場を設けていくことが決まりました。



生きがい・支え合いサミット大阪に参加し、大崎市流地域包括ケアシステムについて発表してきました

令和元年9月9日（月曜日）、10日（火曜日）に大阪府立国際会議場にて「いきがい・助け合いサミット」が開催され、大崎市と池月地域づくり委員会がポスターセッションに出展しました。

1つは地域包括ケア推進室から大崎市全体の取り組みとして地域包括ケアシステムの深化・推進に向けて庁内横断的に取り組んでいることを紹介したポスターです。特に関心が高かった点は、地域自治組織主催のワークショップに行政の関係部署がファシリテーターとして支援している点や専門職が地域のニーズに合わせて出向いている点でした。

2つ目は「池月地域づくり委員会（池月サポートセンター）」で地域の生活支援を行う「池月を助け隊」の紹介やこれまでの取り組みについて紹介するポスターでした。地域の方が有償で生活支援を行っている仕組みについて関心を持つ方が多かったようです。

他の自治体のポスターを拝見し、さらに取り組むべきことが見えてきたため大崎市では今後も継続して地域と協働し支え合いの創出に取り組んでいきます。



高倉地区のコーディネーターが「生活の困りごと」把握に取り組んでいます

令和元年9月12日（木）午前10時から堤根集会所にて堤根地区の方々、保健推進員、生活支援コーディネーター、民生委員、高齢者の集いの指導員と共に「お茶のみ会」と一緒に、カードを用いて「生活の困りごと」を把握しました。

公民館からの距離がある堤根地区です。ご自身から健康のために『100歳体操』に参加していきたいと楽しみにしている方もいましたが、この地区では年4回のお茶のみ会もあり、楽しいレクリエーションも行って交流しているようです。

課題把握の内容は、重労働も兼ねるものが多く、他の区でも取り上げられていた「ゴミ捨て」の課題もありました。その場で「ゴミ置き場の工夫」や「見守りながらのお手伝い」などのたくさんの意見もいただきました。色々な関係者が協働で動き、楽しい会話をしながら課題把握ができました。今後は、各地区にも回りたくさんの課題を把握していく方針です。

三本木北町にて生涯学習出前講座が行われました

令和元年9月12日（木曜日）午前10時から北町コミュニティセンターにて、「北町ウィーク仲良し会」の出前講座として「地域包括ケアシステムについて」の講話を行いました。この会の参加者は平成元年から開始され多くの方は20年近くも参加する方もおり、平均年齢は83歳、最高齢者で91歳の方が参加しています。

会の皆さんに健康の秘訣を聞いたところ、毎日欠かさず「運動をする」、生活リズムを整えるなどの「活動に関すること」、家族間の中でも「役割を持つ」等、日々心がけが大切とっておりました。

既に、私たちが推進する「地域活動・社会参加をすることで元気で長生きできる」ことを自ら行っているようですのでこれからも続けられるようにみんなで話をしました。

毎日少しずつ心がけていること「健康維持」につながることは欠かせません



医療と介護の連携

緩和ケア連携ケースカンファレンスが行われました

令和元年9月6日（金曜日）午後6時30分から8時30分より大崎市図書館にて、大崎市民病院主催の「緩和ケア連携ケースカンファレンス」を大崎地域の医療従事者、介護支援専門員、行政などを対象として地域で緩和ケアを考える会を開催し、129人の緩和ケアに関心をもった医療介護関係者が参加しました。

《緩和ケアとは？》

終末期に行われるケアであると思われる方は少なくないかもしれませんが、「治癒を目指した治療が有効でなくなった患者に対するケア」であるとされていたものを、新しく緩和ケアの定義を修正し、「終末期に限らずより早期から提供されるべきものであるという立場を明確」にしたものを、より多くの方に知っていただけるように行いました。

令和元年度第5回ふらっといしかいサロンをオープンしました

令和元年9月12日（木曜日）10時から大崎市図書館1階フロアスペースにて、第5回目の「ふらっといしかいサロン」をオープンし24人が来所しました。

このサロンは、大崎市医師会主催で行っており、地域の方々が病気や健康管理のことについて「ちょっと聞いてみたいこと」を医師や看護師等に気軽に相談できる場になっています。お立ち寄りいただいた方の中には継続的にサロンを楽しみにしている方もいまして、サロンが徐々に周知されてきた様子が見えます。

次回は10月20日（日曜日）午前10時から、古川保健福祉プラザ2階を会場に血圧測定・健康相談・ミニ医学講座として「こどもの感染症」が行われます。

地域の方々が病気や健康のことを気軽に聞ける「ふらっといしかいサロン」



大崎市医師会主催の第 5 回医学講座が開催されました

令和元年 9 月 17 日(火曜日)午後 6 時 30 分から大崎市図書館にて大崎市医師会主催による「今だから学びたい介護事業者向け医学講座」が開催され、市内の介護事業所に勤めるケアマネジャー等が参加しました。今回はまつむら歯科クリニック 院長松村 賢 医師が講師となり「口腔ケア」についての講座が行われました。大崎市医師会では、介護に従事する職員が、医学的な知識と健康管理のポイントを学ぶことで高齢者等が安心な療養生活を行うことができるよう、今年度も毎月第 3 火曜日午後 6 時 30 分から大崎市図書館にて医学講座を開催していきます。

健康維持へつながる「口腔ケア」について学びました



第 5 回自立支援型地域ケア会議が行われました

令和元年 9 月 19 日(木曜日)午後 1 時から、大崎市役所北会議室 1 階にて令和元年度第 4 回自立支援型ケア会議が行われました。自立支援型地域ケア会議は高齢者の QOL(人生の内容の質や社会的にみた生活の質)の向上、要支援者の生活行為の課題の解決等、状態の改善に導き、自立を促すための会議となっています。

今回の相談者の方は、「今後の生活を継続するために自立できるように支援が欲しい」との思いがあることから、本人の自立に向けた思いを叶えるためにも、それぞれの専門職の方々からのアドバイスをいただきました。「本人が一番望むところ」が明確になると「どの専門員が支援できるか」も明確になってきます。

この会に第 1 層の生活支援コーディネーターが参加することで、「個人」と「地域」にとってどのような地域資源が合うのか、どのような課題があるのかも把握でき、地域課題の解決策を検討していきやすくなります

専門職からのアドバイスをうけ自立に促し、そこから見える地域課題解決に向けても話し合っています



大崎市岩出山地区で看護職のつどいが開催されました

令和元年9月27日（木曜日）午後3時から、大崎市民病院岩出山分院の会議室にて、「岩出山地区の看護の力をみんなでつなげよう」をテーマに、この会が始まっての3年目では「介護現場でも活かせる研修」をふまえて交流を行うことにしました。

今回は「誤嚥性肺炎による入退院する患者」が多いことから、「嚥下に関する基礎知識と食事介助時の工夫」として「とろみ剤について（味噌汁）の研修」と「看護職の抱えている問題について」を学びました。

現場の看護職員の抱えている問題として、「訪問看護師の人数が少なく連携する資源も地域によって差」があることの「人材不足」以外にも、「職員の高齢化」・「訪問介護事業所の閉鎖」とあらゆる分野での課題が明確になりました。中には、看護職が医療と連携することで「ケア体制がつくられている」とのことも明確になりました。